＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

♪どれみふぁそったくん♪

～子どものための

アウトリーチ～

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

第１章　プロジェクトの概要など

１．プロジェクトの名称、目的など

(1)名称

♪どれみふぁそったくん♪

～子どものためのアウトリーチ～

(2)目的

地方の小学校、及び福祉施設の子どもなど、普段生の演奏を聞く機会の少ないと思われる子ども達に向けて出張で演奏会を行い、子ども達にとってよき音楽体験となる機会を提供する。

ただ聴くだけの鑑賞会にとどまらず、楽器のしくみや音楽の歴史について知るなど学習の面を持ち、生涯学習としての視点を意識し音楽に関わることのできる場面を設けるなど、よき音楽体験として子どもたちに変化をもたらす機会となり得るよう留意する。

また、それぞれのニーズにどう応じられるか、主催する側の意向をどこまで実施できたか、実践を通して報告する。

今年度は、大学近辺の児童館への訪問演奏を主に行い、幅広い年齢層の子どもたちに生の演奏を聴く機会を提供する。

また、これまで三つの視点を持って活動を行ってきた。

（３）方法

①実施先とアポイントメントを取る。現場のニーズを把握する。

②現場のニーズに応じた活動や演奏会の企画案を作成し、実施に向けた準備をする。

③現場の方に企画内容を確認して頂き、企画案を修正し改善案を作成する。

④活動実施後、現場のニーズに応えられているか、学習の面はあるか、参加型であるかという３つの視点から分析を行う。

２．代表者および構成員

・代表者

西行仁美　　音楽教育専修２回生
肥後結美子　音楽教育専修２回生
高垣実久　　音楽領域専攻２回生

・構成員（運営・演奏）

谷口沙也佳　音楽領域専攻３回生
山尾奈帆　　音楽領域専攻３回生
豊島帆乃香　音楽領域専攻２回生
赤松亜依　　音楽領域専攻１回生
泉谷昂毅　　音楽領域専攻１回生
大橋茉奈　　音楽領域専攻１回生
奥原実紅　　音楽領域専攻１回生
北川結愛　　音楽領域専攻１回生
鬮目優衣　　音楽領域専攻１回生
城田紗良　　音楽領域専攻１回生
関本ひより　音楽領域専攻１回生
仲野優菜　　音楽領域専攻１回生
松本愛華　　音楽領域専攻１回生

・演奏員

岩本悠香　　音楽領域専攻卒業生
岩崎章泰　　音楽領域専攻２回生
田村菜々　　音楽領域専攻２回生
福成麻衣　　音楽領域専攻２回生

３．助言教員

田邉織恵先生（音楽科）

４．アウトリーチについて

Out（外へ）reach（手を差し出す）という意味の英語である。元々社会福祉の分野で行われる地域社会への奉仕活動や教育普及活動などの意味で用いられていた。現在では、現場へ出向いて活動する「訪問 ○○」「出前○○」といった受け手のニーズに合わせた取り組みも指す。(1)

音楽分野でのアウトリーチ活動とは，音楽家や音楽団体などが音楽に普段触れる機会の少ない人々に働きかけ，音楽を普及することであり，さらに提供者と享受者が対等な立場で一緒に楽しむという双方向的なスタンスが特徴である。

第２章　内容や実施経過など

（４月）・活動参加アンケート実施

（11 月）・伏見区内の児童館への電話による連絡
・役員会議
・はなぶさ児童館と電話にて打ち合わせ
・藤城児童館と電話にて打ち合わせ

（12 月）・はなぶさ児童館への訪問・打ち合わせ
・藤城児童館への訪問・打ち合わせ
・はなぶさ児童館　訪問演奏

（１月）　・はなぶさ児童館との打ち合わせ

（２月）・はなぶさ基幹ステーションによるスマイル子育て応援講座 Part15 での演奏(予定)

第３章　結果や成果など

１．はなぶさ児童館

（１）実施までの流れ

活動を行うにあたり、大学近辺にある児童館に活動の主旨などを紹介する電話をかけた際に、12 月 25 日に行う児童館のクリスマス会での演奏依頼とはなぶさ保育園のクリスマス会での演奏依頼も受けた。12 月に訪問・打ち合わせ等を行い、クリスマス会を実施する会場であるはなぶさ保育園の体育館を見学させていただき、当日の演奏内容等について打ち合わせをした。打ち合わせで決めきれなかった内容については、ＬＩＮＥで連絡を行った。

（２）実施内容(はなぶさ保育園)

①日時　　2019 年 12 月 25 日(水)
　　9 時～12 時

②対象　　未就学児

③演奏内容

・《きよしこの夜》フランツ・クサーヴァー・グルーバー作曲/演奏形態・ハンドベル
・《クリスマス・ソング・メドレー》岩本悠香編曲/演奏形態・ユーフォニアム
・《はらぺこあおむし》エリック・カール原作/もりひさし訳詞/新沢としひこ作曲/中村暢之編曲/湯川徹ピアノ用編曲/演奏形態・うた, ピアノ
・《パプリカ》米津玄師作詞作曲/演奏形態・うた,ピアノ
・《ミッキーマウスマーチ》Mickey Mouse Club March 原作/ジミードッド作詞作曲/演奏形態・ドレミパイプ
・《ドレミの歌》リチャード・ロジャース作曲/オスカー・ハマースタイン作詞/演奏形態・ドレミパイプ体験

④演奏者

岩本悠香（ユーフォニアム・ドレミパイプ)、西行仁美（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ)、肥後結美子（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ・うた)、高垣実久（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ・うた)

⑤展開

1 ハンドベルによる《きよしこの夜》の演奏 2 ユーフォニアムの楽器紹介と《クリスマス・ソング・メドレー》の演奏 3 音楽付きペープサート《はらぺこあおむし》の演奏 4 《パプリカ》の合唱 5 ドレミパイプによる《ミッキーマウスマーチ》の演奏 6 ドレミパイプによる《ドレミの歌》の演奏体験

（３）実施内容(はなぶさ児童館)

①日時　　2019 年 12 月 25 日(水)
　　13 時～16 時

②対象　　小学生

③演奏内容

・《きよしこの夜》フランツ・クサーヴァー・グルーバー作曲/演奏形態・ハンドベル
・《クリスマス・ソング・メドレー》岩本悠香編曲/演奏形態・ユーフォニアム
・《あわてんぼうのサンタクロース》小林亜星作曲/吉岡治作詞/演奏形態・合奏
・《赤鼻のトナカイ》新田宣夫作曲/MARKS JOHN D 作詞/演奏形態・合奏
・《パプリカ》米津玄師作詞作曲/演奏形態・うた,ピアノ
・《ミッキーマウスマーチ》Mickey Mouse Club March 原作/ジミードッド作詞作曲/演奏形態・ドレミパイプ
・《ドレミの歌》リチャード・ロジャース作曲/オスカー・ハマースタイン作詞/演奏形態・ドレミパイプ

④演奏者

岩本悠香（ユーフォニアム・ドレミパイプ）、西行仁美（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ）、肥後結美子（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ・うた）、高垣実久（ピアノ・ハンドベル・ドレミパイプ・うた）

⑤展開

1 ハンドベルによる《きよしこの夜》の演奏 2 ユーフォニアムの楽器紹介と《クリスマス・ソング・メドレー》の演奏 3 《あわてんぼうのサンタクロース》と《赤鼻のトナカイ》の演奏 4 《パプリカ》の合唱 5 ドレミパイプによる《ミッキーマウスマーチ》の演奏 6 ドレミパイプによる《ドレミの歌》の演奏体験

第４章　まとめと反省、今後の展望など

(１)成果

これまで三つの視点を持って活動を行ってきた。

視点の一つ目に「現場のニーズに応えられているか」があった。まず、昨年度の反省点として、ニーズの内容を具体的に把握す

るために現場側とより密な打ち合わせを行うことが挙げられていた。この点については、電話での打ち合わせと直接会っての打ち合わせを組み合わせて、実現することが出来た。

また、「児童館に使用されていないドレミパイプがあり、それを用いた活動をしてほしい」というニーズに、ドレミパイプの演奏と楽器体験の実施によって応えることが出来た。

さらに、「子ども達が日ごろ読んでいる《はらぺこあおむし》のペープサートを音楽付きで披露したい」というニーズに、応えることが出来た。《はらぺこあおむし》をもとにした歌を選曲し、演奏した。

二つ目の視点「学習の面はあったか」については、ドレミパイプの長さによって音程が変わることや、乳幼児を対象に行った《はらぺこあおむし》の演奏では、保育園で読み聞かせている題材を用いることで、日ごろの学びをより深めることが出来た。

視点の三つ目である「参加型であったか」については、昨年度から課題としていた、「子どもが主体となるように演出を工夫する事」について、次の３点において実現できた。

１点目は、ドレミパイプの演奏体験を実施出来たことである。誰でも簡単に演奏できる楽器であるドレミパイプの特性を活かし、乳幼児から児童までの年齢に合わせた、活動内容に工夫することが出来た。

２点目は、児童と共に合奏を行えたことである。児童らは小学校でリコーダーや三味線などの楽器の演奏に取り組んでおり、児童館でもそれらの楽器を用いた合奏活動を行っている。そこで《あわてんぼうのサンタクロース》と《赤鼻のトナカイ》の合奏にバスドラムやマリンバで参加した。

３点目は、「みんなで一緒に歌える歌」として《パプリカ》を曲目に取り入れたことである。乳幼児から児童までの幅広い年齢層の子ども達が主体的に参加できる活動となった。

(２)課題

次年度に向けての課題としては３点ある。

１点目は、活動を実施した児童館の他にも、６件程活動を予定していたが、奏者の確保が難しく、実施することが出来なかったことである。今後は、実施先への活動内容の説明の際に合わせて、平日の午後や土日祝日など学生が参加しやすい日時をこちらから提示したい。

２点目は、活動が児童館のみに限定されてしまったことである。活動開始時は、老人ホームなどの福祉施設や、院内学級への訪問演奏と、小学校等への訪問授業などを検討していたが、実施できなかった。明確な見通しを持つために、構成員で定期的に集まる機会を設ける必要があったと考えられる。

３点目は、構成員内における情報共有の不足である。前年度では、構成員の具体的な役割について決定がなされておらず、仕事量に偏りが見られた。それを受けて、今年度は構成員一人一人における役職を明確にした。しかし、役職が増えたために、それらを全員で共有する機会を設けることが難しくなってしまった。定期的に各役職の進行具合を共有できる機会を設けるべきであった。

以上の点を踏まえ、今後の活動に活かしていきたい。

＜参考・引用文献＞

（１）松本 菜摘,河添 達也（2015）「小学校音楽科における「教育プロジェクト型アウトリーチ」の授業開発研究」『島根大学教育臨床総合研究』島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター, pp.181-190

（２）林睦(2009)「音楽のアウトリーチ活動に関する一考察―日本における導入10 年と今後の課題」『音楽教育学の未来』音楽之友社, pp.280-290.